

## ◆事業方針（計画等における位置づけ）

子供たちが地域の方の多様な知識・技術等を学び「生きる力」を育むため、学習指導要領に対応した「出前授業」に特化して学校を支援するもので、小・中学校のニーズを把握して学校へ多種多様な出前授業メニューを提供している。これにより、子供たちは地域の方に見守られながら新たな学び体験し、学ぶ楽しさや気づき・発見などの「よろこび」を得るなど、地域ぐるみで子育てを行う体制を整備している。

## ◆地域学校協働活動（学校支援活動を含む）の実施体制（特徴・工夫等含む）

- 1 教育委員会として組織的に運営するため、「学校支援ネットワーク事業」（出前授業）の事務局を各学校に置くのではなく、教育委員会の中に設置している。
- 2 校長と連携し、「事業担当校長」、各学校に「事業担当教員」を配置している。
- 3 地域コーディネーターを、教育委員会専属として元PTA役員に依頼している。
- 4 平成27年度からNPO法人スカイ学校ネットワークセンターに外部講師の発掘、出前授業の調査・研究・開発等を一部業務委託している。

## ◆運営委員会

事業の実施にあたり、教育委員会に「学校支援ネットワーク実行委員会」（運営委員会）を設置し、実施主体である「学校支援ネットワーク本部」（担当課、地域コーディネーター、NPO法人スカイ学校ネットワークセンター）に対する進行管理及び指導・助言等の役割を担う。

## ◆広報活動（パンフレット、HP活用、広報誌、報告書など）

- 1 HP（墨田区公式ホームページに掲載）
- 2 墨田区教育委員会発行 教育広報誌（平成30年10月号に掲載）
- 3 毎年、年度当初に、学校支援ネットワーク事業案内を各学校に配布（主に学校で選ぶ出前授業のメニューを掲載した冊子）している。
- 4 学校支援ネットワーク事業（出前授業）10周年記念DVDの作製・公表



出前授業の様子

写真：いろいろな国のことばを話してみよう！

## ◆コーディネーターの育成・交流の機会提供や学校に対する事業理解促進

毎年、5月に、「事業担当校長」「事業担当教員」「地域コーディネーター」が一堂に会する「学校支援ネットワーク事業担当者連絡会」を開催し、学校支援ネットワーク事業の説明等を行うとともに、学校支援ネットワーク事業担当課と地域コーディネーターとの意見交換会を行っている。また、毎年、2月頃、教員、外部講師、協力団体、関係機関、地域コーディネーター等の参画のもと、翌年度の事業案内、今年度の事業報告を行い、本事業の一層の充実と学校における更なる活用を促すため、「学校支援ネットワーク・フォーラム」を開催している。

## ◆成果

平成29年度実績

メニュー数 257種類 実施学校数 延べ342校 授業回数 521回 協力団体数 延べ320団体 外部講師派遣数 1,228名 児童・生徒数 延べ25,294名

## ◆課題・展望

## 1 外部講師の受入体制

- (1) 本事業は、外部の方の好意・ボランティアで成り立っている。学校からの連絡や受け入れ態勢には十分配慮し、児童・生徒の礼状や感想文などで感謝の気持ちを伝えていきたい。
- (2) PTAとの連携を深め、学校公開日などには保護者へも協力を依頼し、共同して対応するシステムを確立していきたい。

## 2 今後の方向性

- (1) 改訂された学習指導要領に対応した出前授業メニューの開発
- (2) 学校のニーズを受け、日常の授業とより深く連動した体系的な「出前授業」の開発
- (3) 教科領域等の内容における指導課程の一部として位置づけられた「モデル出前授業」の構築、及び、地域に根差した出前授業メニューの開発